

### 水量を取り巻く現状

#### 森林

- ・旧岡崎市と旧額田町の合併により乙川の上下流域が一体化
- ・森林の間伐が遅れ、人工林の少子高齢化や縄文以降最高の森林の蓄積量
- ・質的に荒廃した森林となっている恐れ



#### 河川

- ・水道水の約半分は市内に水源を有する乙川・男川から取水
- ・乙川の水位データが経年的に下がっていることを示す

#### 洪水

- ・平成 12 年東海豪雨や平成 20 年 8 月末豪雨による被害
- ・岡崎市防災基本条例や岡崎市総合雨水対策計画の策定



### 課題及び解決の方向性

#### 間伐の推進

→公益的機能重視の森林管理

#### 間伐・木材製品の利用促進

→市内事業所や市民による間伐材の利用促進

#### 敷地境界及び森林所有者の明確化

→所有者同意による施業界の確定を市が主導して推進

#### 林業の振興

→地元材を使う文化の継承や作業の担い手の育成

#### 財源の確保

→水源林保全への関心を持続させる仕組み

#### 森林保全の重要性の啓発

→所有者だけではなく全市民に対する啓発

### 何をしていくべきか？

### 提言

#### 放置人工林における水源かん養機能の向上

不健康な森林を強度間伐や広葉樹の植林等を実施し、健康な森林に誘導すること

水源保全への関心を持続させることが重要！

地域の特性に合わせた整備方針を地元関係者と決める体制づくり

#### 水循環影響調査によるモニタリング

森林整備が水量に与える影響を調査し、施策の効果を把握・評価を行うこと

#### 啓発事業の強化

森林の現状について広く市民に周知や森林づくりへ参画できる仕組みづくりを行うこと

#### 敷地境界及び森林所有者の明確化

森林施業の円滑な実施のため、地域主導の体制の構築に努めること

既存計画の理念や管理体制に沿った適切な運用と見直し

#### 里山の保全

身近な里山を水源かん養、景観、生物多様性、文化継承の場としての観点から保全・整備すること

劣化した水源かん養機能の再生を主目的とした基金の創設